

あだたら

第417号
発行所 町会
山田郡 山部
あだたら 編集

七月三十日(日)

登山道整備 湯川溪谷、
荒竜岩下橋架け替え準備、資財運搬

報告 □□□



参加者、他に□□□さん、□□□、都合6名

朝七時五十分、奥岳登山口到着。誰もいない、思ったが、何時もの集合場所に見覚えのあるザック。レストハウスへ向かう登り道の途中に見覚えのある人が、□□□さんだった。参加者十一人。とてもありがた。橋の材料は馬車道終点上がっているもの、番線やトラロープなどは上が

●編集部連絡先
二本松市郡内1-5-15
0243(22) 4245
Fax可 渡辺 正

離れて貰った。甘えられていたのだ。基本的には荷物もあるの、馬車道を登るつもり。結局は二本目三本目は近道を上ってしまったが...

鳥川橋を渡る頃から、草むらに黄色いテープが現れた、「ヨツバヒヨドリ」と書かれていて、その通りヨツバヒヨドリに結びつけられている。恐らく「草刈り作業」で「渡り」をする蝶「アサギマダラ」の食草、「ヨツバヒヨドリ」刈られないようにしたものか。馬車道終点辺りまで見られた。

ヨツバヒヨドリ、歩いたコースのほぼ全域、満開だった。それなのに、「アサギマダラ」がいない。ある程度の標高以上の所にしかないの、山の麓から登っているわけではない。産地としては「裏磐梯」が有名。そこから沼の平、馬の背を越えて来てるのかも。やがてとうとう発見、金明水を越えてすぐの所、湯桶の上のヨツバヒヨドリの群落のあたり飛び回っていた。一羽だけだ(救え方いろいろ、「頭」は私は大袈裟だと思ふ)。その後は発見できなかつた。ここに



10時46分、梯子を運んでいる、□□さん□□さん、場所は硫黄精錬所跡手前。

るのは、やはり馬の背越えて来ているのかも。このあたり風が涼しい。馬車道終点に到着。梯子と鉄パイプ置いてある。□□さんに試しに梯子持って貰った、一人で充分持てる、「軽い」という感想。鉄パイプ、重くて「一人では到底無理」という感想。□□は鉄パイプにトラロープ通した。二十分。運ぶとき手掛かりになるだろうという発想。□□□□さんは鉄パイプの端にゴムベルトで手掛かりを固定、後の端には何も付けず。結局は□□□□□□の方法が良かったかも知れない。一本目のパイプは□□□□□□□□さん、二本目は□□□□□□□□さん、梯子には一

の言葉述べていた。更に、湯川に沿って下がる。急な下りの場所ではパイプは「落として」下げた。荒竜岩橋を渡って。丸札二十二番の、荒竜岩下橋の架橋現場に着く。梯子を橋の上流側に置く。パイプも並べて置く。登山者の通過の邪魔にならないよう、パイプの位置をずらすなどした。みんな下山を始めたところで、置いた状況の撮り。影をする、十一時五十分。登山道の様子、写真撮影しながら皆の後を追う、十二時四十分、八幡滝前というか、河原で食事中の皆に追いつく。食事して更に下山、十四時十三分、馬返しから□□□さんに電話お迎えを依頼。登山口に着いたら直ぐに□□□さんが、迎えに来てくれた。奥岳まで送って頂いて、十五時頃無事解散。



12時46分、八幡滝向で昼食、□□さん撮影

七月九日(日)、十七日(月)
七月山行、安達太良山
八重白山シヤクナゲ開花確認

報告 事務局



これは17日の参加者のうち4名、山頂の下、沢の源流、うまく撮影できませんでした



スキー場上、末端崖の、曲がったハシゴ

七月九日、六時三十五分、奥岳系、同行二名。歩き出しは曇り空、スキー場で日が射ってきて、ものすごく暑くなり、熱中症の症状が出てきた。汗が酷い、長袖を脱いで丹沢土産のTシャツだけになった。スキー場

上の末端崖の梯子、上部が歪んでしまっている。固定していた石が動いた物と思われる。使用には差し支えない、稜線に出た五葉松平の標識手前の八重白山シヤクナゲ、開花と八重状態を確認。五葉松平標識の少し上で、雨になった。雨具出た。雨具出しても良かったが、薬師岳山頂すぐ下だったので、雨具出さずに、ロープウェイ山頂駅に向かった。そこで雨避けようとしたのだ。そこでロープウェイ駅で、ずぶ濡れのTシャツ脱いで、長袖に着替える。少しの休憩



スキー場上、末端崖の壊れた階段

今回は私口口が軽い熱中症起こして、連不調に見えたらしい、少し休んで、仙女平の分岐目指そうとしたら、同行の二人に止められた。そこで下山する事とした。

で体調は戻る。八重白山の開花確認などの植物観察の山行は、一寸歩いて、花見付けて調べて、またすぐ歩いて見つけて調べてと、普通の山行のように、一定の速度で、調子を整えて、と言わねば無いです。初めての人には逆疲れて仕舞う。



9日、五葉松平の八重白山



17日、仙女平分岐下、松の木ポイント

た。ロープウェイには只で乗せて貰った。帰宅したら屋前だった、昼食は自宅に戻ってからとなった。

◆ ◆ ◆
十七日は、ロープウェイ山頂駅からの開花確認となった。参加者は五名だ。奥岳八時集合。山頂駅上の木道から、ハクサンシヤクナゲの開花が見られた。さすがに裏年で、開花は少ない。八重かどうかの確認も行った。最初の確認は、藪ポイントだった。道からは見え



17日、仙女平分岐下、藪ポイント



クロマメノキ

ず、藪に少し入り込んで、の確認となった。花の中の「花」の縁はうすく茶色になっている。開花してから時間が経っているのだ。次は松の木ポイント、松の木裏まで廻って見つけた。裏年だと確認も大変な作業となる。次は山頂下水平道ここでも開花少ないので、見つけにくい。此処の花は

下の花と違って、花の中の「花」の縁、茶色になっていない。まだ咲いた直後で、若い白い儘なのだ。この上の小屋分岐で、山頂には向かわずに、くるがね小屋方面に下る。沢の極近くでは、「モウセンゴケ」が一面に咲いていて、正に「毛氈」状態だ。花も咲いていた。そのあたりに、まだ小さいが、ガンコウランの実、数は少ないが、充分大きくなった「クロマメノキ」も見つけた、美味しかった。峰の辻の西側の沢、木の実が、他の所より、早く結実していた。まだ七月なのだ。峰の辻から少し下がって昼食。「ハンノキ」林を抜けて、旧道分岐のあたりで、今日最後の八重白山シヤクナゲの開花確認。勢至平に出た、「八之字」からは近道を下がる、口口は途中で「足が吊って」皆からは遅れてしまった。直ぐ追いつけたが...

七月十七日(月) 海の日

個人山行、蔵王駒草山行

報告 □□□□



海の日、七月十七日、朝七時出発。今回は三人で行く。四号国道を北進、白石・遠刈田温泉よりエコーラインへ。途中滝見台で休憩。駒草平ではトイレ休憩。大黒天登山口駐車場はほぼ満杯。刈田峠駐車場は満杯。蔵王ハイライン料金場は二〜三台待ち。山頂駐車場第一第二駐車場満杯で、空場を探し駐車する。エコーラ



駒草



オノエラン

うと相手から「ドウナッテイルノ！」との事。会津の山友である。「前に来たが、早かったの、今日駒草見に一人で来た」、との事。その後昼食、下山も一緒にいる。三年くらい前、東吾妻で合っただけからの再会である。

熊野岳山頂まで戻り下山。下山時は天気も良くなり避難小屋下辺りのオノエランが見頃を迎えていた。馬の背まで戻ると晴れ上がり御釜や目下に広がる風景を楽しむ事が出来た。レストランで休憩、リフト乗りの場駐車場まで送り、「マタネー」と別れ、上山、米沢を通り、午後六時帰宅する。



エゾクサイチゴ
→ ハクサンイチゲ



ヒメザクラ
→ ヒナザクラ

焼石岳の記事のうち、二頁三段落目、「八月十九日」を「六月十九日」に。「エゾクサイチゴ」を「ハクサンイチゲ」に。「ヒメザクラ」を「ヒナザクラ」に訂正します。

≪先月号(四二六)号訂正記事≫

◆今年の夏は暑い。私の寝室、湯川深谷から帰った七月三十日の就寝時は三十三℃、扇風機付けて寝た。翌朝の起床時(朝四時)は二十八℃、一晩中真夏日だ。翌八月一日の午前中には雨が降って、二十七℃くらい、とても涼しく感じたが、真

編集後記 四一七号



ハシゴは、馬車道終点まで運んであった。



甘えん坊のアキアカネ

夏日だ。今日八月二日午後三時四十五分、仕事場は三十五℃、会報あと少しだ。

◆三十日の登山道整備、奥岳では化繊の半袖一枚で、暑くはない。馬車道登っても、下界程暑くは無い、勢至平に出て風に当たると、涼しい。八幡滝での昼食、気持ちよかった。そこから少し上の登山道に出たら、暑く感じた。少し歩いたら消えたが、当たり前の話だが、それ相応の衣類で体動かしければ、特に山にいれば、耐えられるかも知れない。皆さん、山登りしましょう！ □

◆個人山行の記事下さい、メールだと有り難いのです。が、手書きも歓迎、FAXも受信できます。



黄色の、玉川ホトトギス

≪七月三十日報告、オマケ写真≫